

# MD\_JIT生産システム構築によるアジルビジネスへの挑戦

青 野 洋 己\*

The Challenge for Agile Business by Development of Module\_JIT Production System

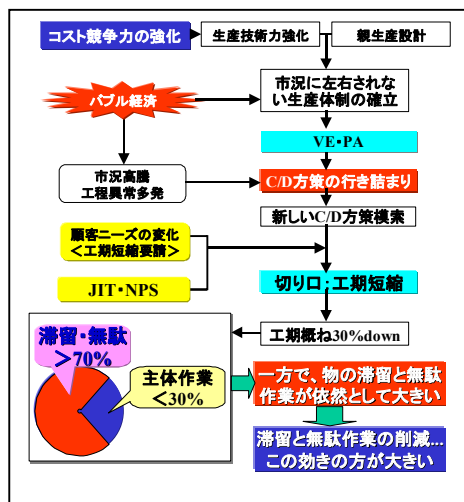
Hiroki AONO

Key Word: Agile Business, Production System, Information Technology, Module

## 1. 活動の動機&命題

～オペレーションNo. 1～

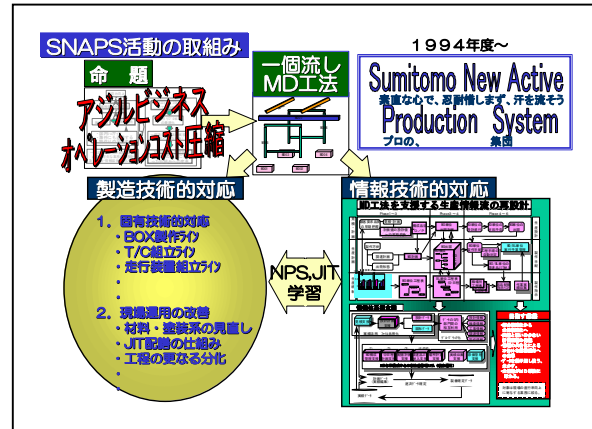
1991年からスタートした製造現場の工期短縮活動は、バブル期の市況高騰や外部依存による工程異常多発などコストダウン活動の行き詰まり及び顧客の工期圧縮要請に対応し、弱体化した生産技術・製造技術力の回復とそこを切り口にしたコスト競争力強化を狙ったものであった。(図表 1-1)



図表 1-1

JIT・NPS等を学習するなかで「個別受注生産の搬送設備（コンテナクレーン、連続アンローダー等大型構造物）でも一個流しできるのではないか」と思い、いくつかの実案件でトライしたところ一個流し生産が有効であることがわかった。しかし、これを全体的な取組みあるいは日常的に定着するためには、現状の仕事のやり方・旧来の生産システムのままでは困難であることが明らかであった。そこで、更に工期を圧縮し業界No. 1のスピードを実現するために製造技術と情報技術を同時並行的に変革するSNAPS<sup>i</sup>活動を展開するものとした。(図表 1-2)

\*住友重機械工業株式会社 新居浜製造所



図表 1-2

## 2. SNAPS活動の経過

～業務変革とIT化による生産性向上～

1991年から3年間はJIT・NPSを学習しながら、特定の製番で一個流し生産方式にトライした時期であった。一定の成果は得られたが手作りが故に、限界がくることは見えていた。そこで一個流し工法の定着に向けて1994年からSNAPS活動を開始し、まずは一個流し生産を支援する情報流の再設計及びそれに合わせた業務変革活動を推進し、我々流の一個流しMD工法を確立していった。そして1997年からITによる全面支援を開始、工期圧縮を更に加速するものとした。

すなわち、もの作りの軸を定め→それに合わせて業務を変え→ITでさらに加速する... という取組みによってアジル化を狙ったものである。

そして2000年1月個々のシステムを統合し「MD\_JIT生産システム」システム呼称SMILE S<sup>ii</sup>として全面導入し、現在に至っている。(図表 2-1)

<sup>i</sup> Sumitomo New Active Production System  
の頭文字をとったプロジェクト名

<sup>ii</sup> Sumitomo Manufacturing and Innovative Leading  
Enterprise System の頭文字をとったシステム総称